

ブリ人工種苗増産にかかる検討会について

目次

- | | | |
|---|--------|------|
| 1 | 検討会の概要 | P. 2 |
| 2 | 参考資料 | P. 4 |

(一社) 全国海水養魚協会



1 検討会開催の流れ

- ◆ ブリ類の行動計画を推進していくため、課題の深掘りとして、「ブリ人工種苗の増産にかかる検討会」を開催。
- ◆ 検討会は、養殖業者、種苗生産業者、水研機構、水産庁のメンバーのほか、県や栽培センター等がオブザーバーとして参加。
- ◆ 検討会は今年度に3回開催し、情報交換や種苗生産における課題について意見交換を行った。

検討会は、2021年9月、12月、2022年2月の計3回開催

第1回検討会：情報提供と育種・種苗生産における現状と課題の整理

第2回検討会：情報提供と育種・種苗生産における課題と対応策について意見交換

第3回検討会：育種・種苗生産における課題と対応策について整理

<種苗供給のイメージ図>

①育種

水研機構

大学等

民間会社

・親魚等の供給

②親魚養成・ 受精卵供給

民間種苗生産業者
県栽培漁業センター 等

人・施設が不足
= 拡大必須

③種苗生産 (卵から稚魚生産)

親魚候補の
供給

受精卵の供給

民間種苗生産業者
県栽培漁業センター 等

人・施設が不足
= 拡大必須

④中間育成 (現状はあまり連携 が取れていない)

各産地の沖出し中間育成業者
(天然種苗+人工種苗等、多様な形態を想定)

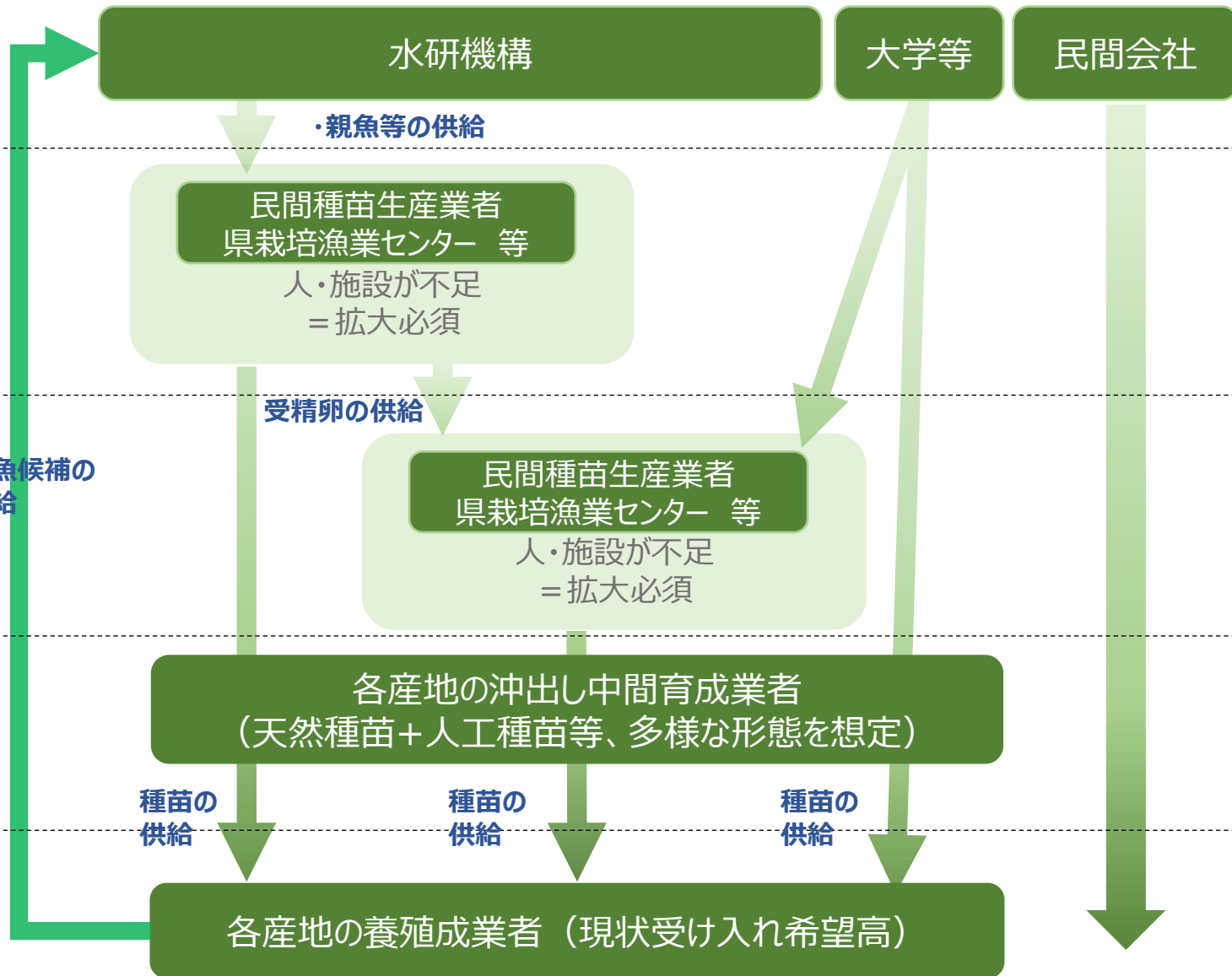
種苗の
供給

種苗の
供給

種苗の
供給

⑤養殖

各産地の養殖成業者 (現状受け入れ希望高)



4 (参考) ブリ人工種苗の増産における主な課題

育種

- ✓ 競争力のある養殖のためには、育種を持続的に続けていくことが必須。
- ✓ 育種には、多大なコストや労力がかかる。
- ✓ 優良系統の取り扱いが不明瞭。

親魚養成

- ✓ 受精卵の確保に向けた親魚養成用の施設が必要である。
- ✓ 経験や技術の不足によって受精卵の確保が安定しない。
- ✓ 親魚養成のコストや手間がかかるため着手しづらい。
(原因：数ヶ月～周年にわたって親魚を陸上水槽で飼う場合が多いため。)

種苗生産

- ✓ 種苗生産施設が不足・老朽化している。
- ✓ 比較的最近の取組であるため、技術者が不足している。
- ✓ 天然種苗養殖業者の需要が不安定であり、増産しづらい。

中間育成

- ✓ 天然種苗とは異なる疾病対策が必要。
 - ・ サイズや沖出し時期（水温など）の違いによるものと推測
 - ・ 腹水症（小サイズで低水温）、べこ病、イリドウィルス など